

Q4

リンパ節郭清

大腸の手術のとき、リンパ節も取るといわれました。なぜリンパ節を取るのでしょうか。

A リンパ節は体の中にたくさんある小さな（普通は径0.4～1.0cm）臓器で、細菌や癌細胞など体にとって不都合な侵入者を監視しています。首すじやわきの下、足の付け根など、表面に近いリンパ節は自分でさわることできます。大腸のまわりにもリンパ節はたくさんあります。

大腸癌が広がる主な道筋はリンパ管と血管（静脈）です。リンパ管に入り込んだ癌細胞はリンパ管を流れて大腸のまわりのリンパ節に流れ込み、そこにひっかかりまゝ。そこで多くの癌細胞は体の攻撃により死滅しますが、生き残った癌細胞が増えるとリンパ節転移ができあがります。さらに進むと遠いリンパ節に次々に転移することになります。さらに、胸管という太いリンパ管に入り込み、胸の中を通過して太い静脈に合流します。

ですから、ある程度大腸癌が進行すると、近くのリンパ節には癌細胞が潜んでいる可能性が高くなります。そこで、手術では、癌のある大腸を切り取るだけでなく、その近くのリンパ節を（予防的に）取る手術が行われます。これをリンパ節郭清といいます。たとえリンパ節に転移があっても、リンパ節郭清を行うことによって癌を治すことができるのです。リンパ節郭清の範囲は、大腸癌の進み具合（ステージ）に応じて決めています。

リンパ節郭清術には高度な技術が必要で、手術中に最も神経を使うところです。でも安心してください。日本の手術技術は世界中で一番進んでいます。

リンパ節を取っても大丈夫ですか。

A リンパ節は体全体に多数分布しています。大腸癌手術で切り取られるリンパ節は、切り取られる大腸の領域から集まってくるリンパ液の検問所の役割をしています。したがって、監視すべき臓器がなくなってしまうので、その領域のリンパ節をとっても体には影響はありません。